

親鸞さまの

【本文】

眞実信心しんじつしんじんの称しょうみやう 名は

弥陀回向みだえこうの法なれば

不ふえこう回向となづけてぞ

自力の称名しょうみやうきはるる

【意識】

南無阿弥陀佛となと称えさせて頂くこと、お念仏は

阿弥陀様が私に向けてお与え下さったものです。

私が阿弥陀様に向けていくもの、与えていくものではないため、お念仏は「不ふ回向」であると言われます。

私が、私の功績で称えることは、本来の意味を取り違えてしまっているのです。

【私の味わい】

時々ですが、自分の行いについて「わざわざ」という言葉をつけて用いている表現を耳にします。例えば、相手のためにわざわざ持参したのに不在だった、という表現です。

自分で自分に「わざわざ」を付けるのはどこか違和感があるな、と感じていました。

語源は、「態たい態たいしし（わざわざし）」に由来し、「態たい」には「意識的に何かをする」という意味があるようです。この為、相手に向けて使う時には、意識的に配慮してくれて有難うという感謝の表現になります。しかし、自分に向けて使うと、意識的に配慮したと自分を強調した表現になります。誤用は勿論のこと、奥ゆかしさという点でも用法には気をつけたほうが良いな、と感じます。

では、お念仏はどうでしょうか。お念仏は、私の手を私が合わせて、私の口を私が動かして称えているように表面的には見えます。では、お念仏は「わざわざ」私が称えているのでしょうか。親鸞聖人は違うと、仰せです。お念仏は「わざわざ」阿弥陀様が私達に向けてお与え下さったものです。その阿弥陀様の私達を思つて下さるお心が、私達の口に、手に、伝わってくださったと受け取るのです。そのお与え下さったことを感謝を以てお称えさせていただくのです。

この意味で、私達は称えるのでも、信じるのでもありません。

阿弥陀様によってお称えさせていただき、信じさせていただくのです。